

群馬県は、新型コロナウイルススワクチンの優先接種の対象に建設業を加えた。高崎市に17日開設した県央ワクチン接種センターで接種してもらう。16日に県庁で会見した山本一太知事は、「建設業をはじめ災害時に最前線に対応する人は社会に欠かすことのできない存在、まさにエッセンシャルワーカー」と理由を説明。同席した群馬県

群馬県

建設業協会の青柳剛会長は「地方の建設業にとって先陣を切った画期的な取り組み」と謝意を示した。

県は、▽医療▽福祉・介護▽教育・保育▽警察・消防―をワクチン接種の優先枠としてきた。同センターで18歳以上の接種が21日に始まることになっており、優先枠を拡大することにした。関係団体と調整し、接種希

建設業にワクチン優先接種



会見する青柳会長(左)と山本知事
＝16日午後、群馬県庁

望者を管理しながら、できるだけ早い接種を進めるといふ。会見で山本知事は「社会インフラの維持に必要な建設業、エネルギー・インフラ、公共交通を優先接種の対象にする」と表明した。「エッセンシャルワーカー

の範囲に明確な定義はない」としながらも、医療や介護などが「全国的に位置付けられていない」と説明した。「建設業をエッセンシャルワーカーに位置付けるのは群馬が全国初」とも強調した。

建設業をエッセンシャルワーカーに位置付けた理由の一つに、山本知事は「災害の激甚化」を挙げた。その上で「県民の安全を守る災害対応業務の重要性が増している。雨が增える時期、県民の安全安心を守るために、(建設業など)こころした人の接種を早期に進めたい」と危機感を込めて語った。台風災害の緊急対応や豚熱(CSF)の防疫業務に群馬建協の会員企業などが対応してきたことを紹介し、

災害時最前線で対応する

エッセンシャルワーカー

「建設業に携わる人をエッセンシャルワーカーにしたことは大きな意味がある」とも述べた。

青柳会長は「県民の安定的な生活の確保に向けた仕事を担うエッセンシャルワーカーとして明確に位置付けられた」と応じた。群馬建協は12支部の対応を本部が取りまとめ、新規感染者の動向や現場の円滑な施工に配慮しながら会員企業の職員などから接種を進める。

青柳会長は建設業の役割や使命について「台風シーズン前に災害に強い強固な体制を築きたい」と述べ、災害出動実績のある会員企業の従業員への接種も順次進める考えを明らかにした。優先接種は「防災減災・国土強靱化」とともに「災害時のやりの醸成に大きく寄与する」と述べ、「協会の行動指針にある『地域を守る建設業の役割』をしっかりと発揮したい」と決意を示した。

地域建設業のワクチン接種



建設業の優先接種を表明した群馬県知事の定例記者会見(16日、前橋市の県庁で)

- A 今週も新型コロナウイルスワクチンの職域接種に関するニュースが相次いだ。地域建設業の動きが目立ったね。
- E 岡山県建設業協会は、協会が主導する形で医療資源や会場、接種人数を整えた上で、会員企業関係者の職域接種を実施する。各社の社員に加え、その家族や協力会社も含める計画で、1万人を優に超える大規模な接種となる見込みだ。全国に先駆けした素早い動きだったね。
- F ほかの地区では、従事者数の多い建設業界が職域接種のために相当数の医師や看護師を抱え込むと、地元地域からの反発を招くのではと、申請に尻込みしているという話も聞く。
- G その点、群馬県は行政として、建設業を日常生活の維持に欠かせない「エッセンシャルワーカー」と明確に位置付け、警察や消防、福祉、教育分野などと同様に、ワクチンを優先接種することに決めた。県知事の定例会見に、建設業協会長が同席すること自体異例だが、あのような場で知事と会長の2人が趣旨説明している姿はかなりのインパクトがあったね。
- A 群馬モデルは、全国的にも業界にとって画期的だったが、どんな経緯があったの。
- G 初めは群馬建協も中小企業の集まりであることを踏まえ、協会が主体となる職域接種を模索していたが、県と相談する中で今回の形に行き着いた。実際、全県的に医療関係者を確保することには困難がつきまとうため、結果として良い形になったと思う。ワクチン接種うんぬんにかかわらず、県から警察・消防などと同列の重要業種に定められたことの意味は非常に大きい。いたるところで「建設業はエッセンシャルワーカー」とは口では言われてきたが、どこか曖昧な部分があったからね。その点、建設業従事者は日常の立ち居振る舞いを含め、県民に誇れる仕事っぷりが一層求められる。
- F 全国各地で自然災害が頻発する中、災害対応業務の重要性は高まるばかり。群馬のような取り組みが広がればいいね。

群馬は建設を優先業種に

【読売新聞 令和3年6月18日】

◆「Gメッセ群馬」会場での接種計画

対象	6月	7月	8月	9月
優先職種	福祉介護・警察消防 建設業 インフラ			
企業・団体	職域接種 中小企業			
一般	一般			

優先接種とする
主な職種

医療	医師、看護師、薬剤師、医学 生、看護学生
介護福祉	介護福祉士、介護施設従事者、 鍼灸師、指圧師、柔道整復師
教育	小中学校、高校教員、保育士、 学童保育従事者
保安	警察官、消防士
災害対応	建設、電気、ガス、水道、情 報通信業従業員、自治体職員
公共交通	鉄道、バス、タクシー従業員

Gメッセで接種開始

コロナワクチン 64歳以下加速へ

県は17日、2か所目となる県独自の新型コロナウイルスイルスワクチンの集団接種会場を、高崎市の大規模コンベンション施設「Gメッセ群馬」に開設した。当面は社会生活の維持に欠かせない職種の従事者を優先した上で、段階的に接種人数を1日最大1万人に拡大し、64歳以下の接種を加速させる。

21日から一般枠設置

初日は保育士、警察官ら300人ほどが対象となった。藤岡市にある「神流保育園」の広瀬亜友副園長(35)は「1時間弱で接種を終えると、「抱っこなど子ど

もに触れる機会が多い中、うつすわけにはいかないの
で、早めに打てるのは本
当にありがたい」と語っ
た。警察署に勤務する1
50人の警察官も接種を受
けた。

9月末まで運営される会
場は広さ1万平方メートル、最
大6ブースが稼働する。各
団体がまとめた名簿をもと
に、体調や薬の服用状況な
どの予診を経て接種を受け
た後、健康観察で問題がな
ければ退出する。優先接種
を受ける職種の従事者のほ
とんどがまだ接種券を受け

優先接種と並行し、21日
以降は接種券を持っていれ
ば年齢や職種に関係なく1
日100人が接種できる一
般枠も設けられる。予約は
LINEのみで、1週間先
の日程まで受け付ける。そ
の後は段階的に接種人数を
増やすとともに、26日以降
は「職域接種」の受け入れ
も始め、7月中に中小企業
ごとの接種にも対応する。
土日祝日や午後8時までの
夜間も含めて、7月4日ま
でに接種能力を1日3000
0人に引き上げる計画だ。
この日、自身も接種を受
けた山本知事は「稼働率を
上げるため、市町村との連
携や職域接種の支援を進め
ていく。一日も早く希望す
る全員の接種を完了させたい」と意気込んだ。



ワクチン接種を受ける警察官ら(17日午後、高崎市の「Gメッセ群馬」で)

介護職や警察官 優先接種

高崎・Gメッセに県営会場

新型コロナ

県央ワクチン接種センターのスケジュール案

群馬県の資料から	6月	7月	8月	9月
エッセンシャルワーカー	福祉・介護・警察・消防など 建設業・インフラ関連など			
企業・団体	職域接種			
一般	一般			



ブースに座った人に順番にワクチンを打つ歯科医師（左手前）＝高崎市のGメッセ群馬

エッセンシャルワーカーの接種を優先的に進める新型コロナウイルスワクチンの新しい県営接種会場が17日、高崎市の大型コンベンション施設「Gメッセ群馬」に開設された。企業や団体の職域接種、一般向けの接種も進めていく。

一般的なエッセンシャル官、消防士ら命や暮らしを
ワーカーは、介護職や警察 守る上で必要不可欠な仕事

に従事する職務の人たち。

県では夏からの台風シーズンの到来を見すえて災害時の復旧作業などに従事する建設業やエネルギー・インフラ関係、災害やコロナ対応にあたる自治体職員、実習を控える看護学生、指圧師、柔道整復師らもエッセンシャルワーカーの対象に加えた。

初日は、保育士や警察官

ら約290人のほか、山本一太知事ら県職員も接種を受けた。

同センターの接種は、自治体が配布する接種券を持つ全県民が対象。当面の予約枠は1日当たり100人で、21日の接種分からLINEで受け付ける。エッセンシャルワーカーの接種を優先して進め、1日最大1万人の接種をめざす。

来場者は検温の後、指定の接種ブースに進み、看護師から予約票をもとに問診を受ける。その後、医師による予診で接種可能と判断されれば、一席ずつ区切られた接種用の椅子に座り、順番に回ってくる医師にワクチンを打ってもらう。副反応に備える健康観察用のスペースで15〜30分程度過ごせば完了だ。

接種を終えた40代の男性警察官は「スムーズに接種できた。現場で警察官を介して県民に感染させるリスクが下がるのはうれしい」。高崎市の富岡賢治市長と一緒に視察した山本知事は、11月末までに希望する全県

民に接種を完了することは十分に可能と評価。「しっかりと稼働させ、一般の県民にもなるべく早く接種してもらえるようにしたい」と話していた。

県は接種センターを職域接種の会場として活用してもらう制度を設け、18日から利用の募集を始める。従業員の同居家族も含めて接種を受ける対象が1千人以上で、名簿や予約票、接種券の管理ができる県内の法人が対象となる。

医師や看護師を企業側で手配すれば、県側で接種記録やワクチンを管理し、接種のための専用ブースを提供するという。（松田果穂）

県央接種センター開設

64歳以下中心 1日1万人目指す

県は17日、高崎市の「Gメッセ群馬」に新型コロナウイルスの「県央ワクチン接種センター」を開設した。県営の大規模接種施設は太田市の一東毛ワクチン接種センターに次ぐ2カ所目。約1万平方メートルの展示ホールを活用した国内最大規模の接種会場で、64歳以下を中心に1日最大1万人の接種を目指す。

新型コロナ

国のデータ（16日時点）によると、県内人口約197万人の1回目のワクチン接種率は12・3％（24万3029人）で、2回目接種率は2・7％（5万2486人）。うち、65歳以上の高齢者約57万6000人の1回目接種率は41％（23万6353回）、2回目は8・9％（5万1052回）となっている。

4月12日にスタートした市町村による高齢者向け接種と並行し、県は5月24日に東毛センターを開設。東毛センターでは現在、1日あたり約1000人に接種可能で、16日時点の1回目の接種人数は県東部の高齢者を中心



Gメッセ群馬の展示ホール内に設置された県央ワクチン接種センター＝高崎市岩押町で

【妹尾直道】

に1万646人となっている。そこで、県は今後本格化する64歳以下への接種を見据えて、県央センターの開設に乗り出し、希望する全県民への接種を11月末までに完了させることを目指す。

開設初日の17日には、保育士や警察官ら計300人の接種が行われた。接種を受けた山本一太知事は「動線もスムーズでスタッフも丁寧に説明してくれた。（11月末までの）目標達成に全力を尽くした

い」と話した。

県央センターでは対象年齢18歳以上の米ワグネル社製ワクチンを使う。当面は、医療、介護、保育、教育、警察、建設、電気、水道、ガス、公共交通などに従事する「エッセンシャルワーカー」への接種を優先するが、接種券を持つ一般県民も、21日以降の接種分からは無料通信アプリ「LINE」の県公式アカウントで予約（当面は1日100人）できる。また、県央センターは職域接種の会場としても利用される。打ち手となる医療従事者を



新型コロナウイルスのワクチン接種を受ける山本一太知事（左）＝高崎市岩押町のGメッセ群馬で、代表撮影

確保でき、同居家族を含め1000人以上いる県内の企業・団体が対象で、県が7月9日まで希望する企業・団体を募集している。